

～持続的観光の推進を目指して～

- ▶ 訪日外国人旅行者が次回訪問時に希望する活動には、**歴史・文化体験が上位に挙げられており**、文化財の保存から活用への転換が急務
- ▶ 訪日外国人旅行者が日本への旅行の不安材料や旅行中に困ったことでは、**コミュニケーション、通信環境、言語などが上位に挙げられている**

訪日外国人旅行者の内訳（2016年）

中国	637万人	27%
韓国	509万人	21%
台湾	416万人	17%
香港	183万人	8%
東南アジア+インド	263万人	11%
欧米豪	288万人	12%

出所：日本政府観光局

○中国・韓国・台湾・香港の2カ国・2地域で73%
⇒欧米豪などからの誘客拡大が必要

訪日外国人旅行者が旅行中に困ったこと（訪日後）（上位）

1位	施設等のスタッフとコミュニケーションがとれない	33%
2位	困ったことはなかった	30%
3位	公衆無線LAN環境	29%
4位	多言語表示の少なさ・わかりにくさ（観光案内版・地図等）	24%
5位	公共交通の利用	19%

出所：観光庁「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケート」

- ▶ ホテルの稼働率は約8割、一方、旅館の稼働率は約4割。宿泊施設の充実と多様化への対応が急務
- ▶ 観光産業は他の産業と比較して労働生産性が低い
- ▶ 外国人旅行者が訪日前に期待していたことは、ショッピング以外にも多岐にわたり、様々な旅行商品の開発が必要

日本の産業別労働生産性水準（対米国比）※米国の生産性水準を100とした場合

一般機械	128.7	電器機器	58.6
化学	120.2	電気・ガス・水道	53.5
金属	93.2	その他製造業	52.5
金融・保険	88.7	運輸・倉庫	45.7
輸送用機器	84.7	卸売・小売	42.9
建設	80.4	飲食・宿泊	26.8

出所：通商白書2014

○飲食・宿泊産業 ≒ 観光産業は他の産業と比較して生産性が低い

訪日外国人旅行者が訪日前に期待していたこと（上位）

日本食を食べること	69.9%
ショッピング	52.0%
自然・景勝地観光	47.9%
繁華街の街歩き	39.4%
温泉入浴	29.3%
旅館に宿泊	21.3%

出所：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

○ショッピングだけではなく、多様な内容にわたっている

- ▶ 訪日外国人旅行者の滞在先の5割は東京、大阪、京都に集中。各地への分散が重要であり、各地の魅力向上、広域周遊ルート等の拡充とその情報発信、地方空港の活用、空港からのアクセスをはじめ二次交通の整備が必要
- ▶ 自然災害等の発生を想定し、災害時の旅行者対応に向けて万全の備えが必要

訪日外国人旅行者の宿泊先（2016年）

1位	東京都	26%
2位	大阪府	15%
3位	北海道	10%
4位	京都府	7%
5位	沖縄県	6%

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

○東京、京都・大阪の3都市で48%
○上位5都道府県で64%
⇒その他地域の受入余地が大きい

日本へ旅行をすとした場合の不安材料（訪日前）（上位）

1位	言葉が通じること不安	45%
2位	滞在費（現地での費用）が高い	37%
3位	渡航費用が高い	35%
4位	地震が起こるかどうか心配	35%
5位	放射能による健康被害が心配	30%

出所：日本観光業振興銀行「アジア・欧米豪・訪日外国人旅行者の意向調査」

○観光立国実現には、新たな観光客とともに、特にリピーターの獲得が不可欠。そのためには、3つの観光の隘路の打開が必要

- 視点の転換による新たな観光資源の発掘や、多様な手法での観光資源の磨きあげによる魅力ある観光商品の開発が必要
- ICT等を活用した経営手法の導入や、従来型商習慣の見直し等により、利用しやすくなる観光産業となるべく近代化・効率化が必要
- 災害時の旅行者の安全確保や、交通体系と情報システムの構築など、安全な観光の実現と観光基盤の整備が必要

I. 観光資源・環境の充実策

- 歴史・文化・芸術資産等の観光への利活用促進**
 - ・地域における文化財等への視点の転換による利活用の促進
- 地域の観光の魅力再発見と発信**
 - ・スポーツツーリズム、エコツーリズム等の手法によるいわゆるニューツーリズムの展開
 - ・各地における食文化の観光資源としてのさらなる活用
- ユニバーサルツーリズムの推進**
 - ・「年齢」「身体」「言語」の制約を気にせずに旅行ができる環境の整備
 - ・若年層・高齢層への観光参加の拡大、アウトバンド・国内個人旅行促進への啓発活動
- 広域連携観光の推進**
 - ・共通したテーマ・ストーリー等による広域・遠隔地間連携の促進に向けた自治体等への支援
 - ・「広域観光周遊ルート」における具体的プロジェクトの推進

II. 観光産業の近代化・効率化の促進策

- 観光産業の生産性向上**
 - ・ICT等を活用した経営手法の導入
 - ・業務の共同化による経営効率の向上
- 宿泊施設の充実と多様化への対応**
 - ・旅館の設備改善、従来型商習慣の見直しなど受入環境の整備
 - ・各地の実情に沿った秩序ある民泊の制度設計
- 体験型観光の促進に向けた取組加速と体制整備**
 - ・「モノ消費」から「コト消費」へのシフトに対応した体験型観光プログラムの普及・促進など
- 観光を支える人材の育成・確保**
 - ・持続的な観光地経営を行うDMOの中核を担う人材の育成や観光関連の専門家を登録する人材バンク等の活用によるミスマッチの解消
 - ・外国人留学生の活用

III. 安全な観光の実現と観光基盤整備の推進策

- 観光に関わる総合的な安全対策の確立**
 - ・旅行者の交通、宿泊、供食等に係わる確保など危機管理体制の確立
- 旅行需要の拡大に資する交通体系の整備**
 - ・地方空港の活用や二次交通の整備の推進
 - ・観光地における渋滞・混雑解消の推進
 - ・クルーズ船受入拡大に向けた港湾整備等の推進
- 国際的イベントを契機とした受入態勢の整備やプロモーションの展開**
 - ・戦略的な訪日観光プロモーションの推進と海外へのコンテンツの供給強化
 - ・大都市市場に対する各地域からの観光プロモーションの促進
 - ・全国各地の文化や観光資源などの世界への発信
 - ・誘客効果の高いウェブサイトの拡充およびその支援

地域の観光戦略策定や見直しに不可欠な観光統計の整備・活用の促進と情報発信体制の構築（Ⅲ. 4.）

現状認識と課題

基本的考え方

具体的な要望事項